

表2 繊維工学科実習計画表 (1年)

区分	学年 1年 (6単位)		
	概要	実習テーマ	実施数
繊維工学 I		(A)各種繊維の性質 (1)繊維の形態的特徴 (外観、断面、繊維長) (2)強伸度 (3)伸び回復率 (4)水分率 (5)比重 (6)燃焼、溶解、膨潤 (B)糸について 繊維～糸～布に至る 繊維工学入門	8.5
		試験室	4.5
繊維工学 II		(A)手織機で織物を作る (B)製織準備機械	8.5 4
繊維工学基礎		(A)測定器具の取扱いと 伝動装置 (1)ノギス (2)マイクロメーター (3)伝動装置の特徴 (4)回転数とその測定 法	4
工場見学等		映画 (繊維を知る、日本の 紡績、美しい布を作る)	0.5
整理整頓等			0.5
その他		オリエンテーション	0.5
小計			31

習形態とした。

③ 第三学年の指導
第二学年の学習形態を更に発展させるとともに、学年の後半には生徒個々の到達目標と進路、興味関心に応じた学習課題を設定して、自主的学習、勤労体験、創意工夫等の啓発をねらいとして、プロジェクト実習(内容省略)を実施した。

(三) 新実習計画表の作成
表1の指導計画により、三学年を通じた実習計画表(表2)と実施するための実習ローテーション計画表(表3)を作成した。

(四) 実験・実習を中心とした学習指導の実施
昭和五十年年度より、『実験・実習を中心とした学習指導』をめざして、次のような研究を行い実施に移した。

① 実習テーマ別指導計画の作成
新指導計画の趣旨を十分生かすために、実習テーマ別の指導計画を作成した。その一部は表4のとおりである。

② 実習の手びきの作成
生徒がよりわかり易く、スムーズに実習に入れるよう、「実習の手びき」を作成した。そして実習の内容が、実験・調査・観察・見学・作業等多岐にわたるため、テーマ毎に最も適切な指導方法を考えた。

(ア) OHPによる『実習の手びき』
何回かにわたり、継続的な流れの中で、総合的学習の展開をOHPでのプログラム指導とする。この場合

中心とした学習指導』をめざして、次のような研究を行い実施に移した。

① 実習テーマ別指導計画の作成
新指導計画の趣旨を十分生かすために、実習テーマ別の指導計画を作成した。その一部は表4のとおりである。

② 実習の手びきの作成
生徒がよりわかり易く、スムーズに実習に入れるよう、「実習の手びき」を作成した。そして実習の内容が、実験・調査・観察・見学・作業等多岐にわたるため、テーマ毎に最も適切な指導方法を考えた。

(ア) OHPによる『実習の手びき』
何回かにわたり、継続的な流れの中で、総合的学習の展開をOHPでのプログラム指導とする。この場合

実習ローテーション計画表 (1年)

期別	学年 1年	
	指導教師	5名
前期	班	3班 × 4.5週
	テーマ	(1)各種繊維の性質 ①繊維の形態的特徴 (顕微鏡) ②繊維長分布図 ③水分率 (2)手織機で織物を作る (3)糸について
後期	班	4班 × 4週
	テーマ	(1)各種繊維の性質 ①オートグラフによる 強伸度曲線 ②伸び回復率 ③比重 ④溶解、燃焼、膨潤 (2)手織機で織物を作る (3)製織準備機械 (4)測定器の取扱いと伝動装置
備考		前期テーマ完了後、工業映画フィルムライブラリーの紡績、美しい布を作るための準備を行う

TPと同じプリントを配布する。

(イ) カードによる『実習の手びき』
一回で完結の実習に効果的で、テーマの意味づけ、目的、方法等B5判のカードを一人ひとりに与える形式である。生徒のまとめ方の指針も含むもの。

(ウ) プリント、黒板によるもの
いろいろな作業的実習の展開に利用する。

③ 実験・実習の評価について
実験・実習の評価について、科職員の間で共通理解と、適切な評価をめざして評価表を作成し、活用した。

(ア) 「実習評価表」
評価の観点を知識・理解・技能・応用能力・創造性・態度(意欲・参加の姿勢等)に大別し、その各々について具体的な観点を設け、各担当者

④ 新教材・テキストの研究開発
従来、使用してきた準教科書は、むずかしく生徒の実態に適應していないので、よりわかりやすく実験・実習を中心とした学習指導に合った、新たな新教材・テキストを研究することにした。その結果「紡績と織物」を自作す

TPと同じプリントを配布する。

(イ) カードによる『実習の手びき』
一回で完結の実習に効果的で、テーマの意味づけ、目的、方法等B5判のカードを一人ひとりに与える形式である。生徒のまとめ方の指針も含むもの。

(ウ) プリント、黒板によるもの
いろいろな作業的実習の展開に利用する。

③ 実験・実習の評価について
実験・実習の評価について、科職員の間で共通理解と、適切な評価をめざして評価表を作成し、活用した。

(ア) 「実習評価表」
評価の観点を知識・理解・技能・応用能力・創造性・態度(意欲・参加の姿勢等)に大別し、その各々について具体的な観点を設け、各担当者

④ 新教材・テキストの研究開発
従来、使用してきた準教科書は、むずかしく生徒の実態に適應していないので、よりわかりやすく実験・実習を中心とした学習指導に合った、新たな新教材・テキストを研究することにした。その結果「紡績と織物」を自作す